

豊中市立保育所の園児たち約40人が、市内の学校給食センターで出た生ゴミなどを発酵させ作った土壤改良剤「豊肥（とよひ）」で育てたカボチャを収穫した。写真。園児たちはカボチャのツルを引っ張つては切り離し、「これたよ！」と歓声を上げていた。それたカボチャは、食の教材として給食用に調理された。

同市では平成11年から住民、事業者、行政が協働で生ごみの堆肥化実験に取り組み。14年には市緑と食品のリサイクルプラザ（同市原田町）を開設し、市内の生ごみと街路樹から剪定した枝を混ぜて発酵させた土壤改良剤「豊肥」を作り上げた。愛称名は「豊中生まれで作物が豊かに実る堆

バサ

カボチャとれたよ

豊中の保育所、「豊肥」で大きく



2007. P. 15 完結版

「肥」という意味で公募で選ばれた。

豊所（同市野田町）の5歳児20人と、市立服部保育所（同市服部本町）の

5歳児19人が参加した。

園児たちは葉の陰に隠されたカボチャを見て「す

げながら、次々と収穫。保育士は「調理したもの

カボチャの収穫は、同歳児20人と、市立服部保育所（同市服部本町）の

園児たちは葉の陰に隠されたカボチャを見て「す

ちの觀察用の絵画教材として使われた後に調理され、保育所の給食やおや

つで食べられるという。保育所の小阪尚子

園児たちは葉の陰に隠されたカボチャを見て「す

り大きい」と声を上

げながら、次々と収穫。保育士は「調理したもの

を食べるだけではなく、そ

れ、保育所の給食やおやつで食べられるという。保育所の小阪尚子

園児たちは葉の陰に隠されたカボチャを見て「す